

平成 28 年度日本デザイン学会秋季企画大会報告

2016 年秋季企画大会が、10 月 1 日（土）、武蔵野美術大学新宿教室で開催されました。

松岡由幸会長の挨拶の後、各賞の授賞式、その後、「デザインの哲学～豊かさを再考する」のテーマのもとに基調講演、特別講演、パネルディスカッション、学生プロポジションが開催されました。



■ 2016 年度のデザイン学会各賞を受賞された方々の表彰式がありました。

- ・年間論文賞 角山朋子氏「1918 年以前のクラクフ工房によるデザイン活動の諸相—ウィーンの芸術思想からの影響と独自性」
- ・功労賞 梨原宏氏（事由：永年にわたる学会活動、及び学会運営における多大な貢献に対して）
- ・特別賞 宮木慧子氏（事由：永年にわたるデザイン学の教育研究実践に寄与した特段の功績に対して）

■「デザインの哲学～豊かさを再考する」の主旨は、次のように書かれています。

豊かさを再検討によるデザイン哲学の再生、デザインの知の総合が問われると同時に、生活環境や生産環境の豊かさについての思考、デザイン方法や思想の多様性が求められます。また「道具」「地域」「文化」「移動」「風景」「社会」「価値」などのキーワードは豊かさを考えるとき、鍵になるといえます。

この内容については、デザイン学会特集号をご覧ください。



角山朋子氏



梨原宏氏



宮木慧子氏

■基調講演 デザインの哲学—生知の覚醒へ 向井周太郎（武蔵野美術大学名誉教授、日本デザイン学会名誉会員）



面矢慎介氏

■特別講演 デザイン政策の現状と課題 西垣淳子（経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課長）



齊木崇人氏

■パネルディスカッション

パネリスト：

- ・面矢慎介（道具学会会長、滋賀県立大）「道具のありよう（デザイン）から生活を再考する」
- ・齊木崇人（芸術工学会会長、神戸芸術工科大）「文化生態の理解とデザインプロセス」
- ・田中一雄（JIDA 理事長、GK デザイン機構）
- ・藤田治彦（意匠学会会長、大阪大）「デザインと豊かさ」
- ・松岡由幸（日本デザイン学会会長、慶應義塾大）「デザインは、『安心』と『欲望』の狭間で何を考えるか？」

コーディネータ：小林昭世（武蔵野美術大）



田中一雄氏



藤田治彦氏



松岡由幸氏

■当日開催された学生プロポジションでは、24名 / 組の参加がありました。

最優秀賞1件、優秀賞2件、奨励賞4件の計7件が選ばれました。

最優秀賞

- ・伊與田璃久（阿佐ヶ谷美術専門学校）「REFUGE WEAR」避難所での女性のプライバシーを守るウェアラブルシェルター

優秀賞

- ・金兌昱（東京藝術大学大学院）東京エメラルドネックレス計画
- ・渡邊磨哉（阿佐ヶ谷美術専門学校）音楽を、着る。「NUDE BEAT」本当の音楽を体験するための振動する服

奨励賞

- ・上田あずな（早稲田大学理工学術院）歩行足音拡張デバイスを用いた健康支援システムの提案
- ・木村圭汰（湘南工科大学大学院）介護式座位変換型車いすのデザインの研究
- ・竹之内要人（早稲田大学理工学術院）写真における地域特性の認知形態に関する研究
- ・鴛崎祥太（阿佐ヶ谷美術専門学校）「iXi（アイクシー）」親しい二人の「感動」を共有するウェアラブル機器

以上

審査員：工藤芳彰（拓殖大学）、石川義宗（東洋美術学校）、斎藤憲仁（MSW 資料室）、永盛祐介（筑波技術大学）、大内雄馬（武蔵野美術大学）



■パネルディスカッション終了後、法人設立報告会を兼ねてレセプションが開催されました。

研究推進委員会：小林昭世、井上征矢、工藤芳彰、柿山浩一郎、永盛祐介

企画委員会：工藤芳彰、加藤 健郎、黄ロビン、田村良一

秋季企画大会実行委員会：白石学、永盛祐介、石川義宗、小林昭世（文責・実行委員長）

2017 年度日本デザイン学会第 64 回春季研究発表大会 オーガナイズド・セッション企画募集の経過報告

日本デザイン学会では、下記の春季大会の開催にあたり、学会員の皆さまからオーガナイズド・セッションの企画 2 件を募集しました。審査結果は同年 2 月中旬にお知らせ予定です。

日程：2017 年 6 月 30 日（金）～7 月 2 日（日）

場所：拓殖大学（東京都文京区）

■オーガナイズド・セッション企画の申請締切および申請先

- ・申請締切：2017 年 1 月 31 日（火）午後 5 時
- ・申請先：企画委員会委員長 工藤芳彰（E-mail）

■企画申請事項（学会員）

- (1) 学会員氏名（代表者）：
- (2) 連絡先メールアドレス：
- (3) 申請年月日：
- (4) テーマ（和文）：
- (5) テーマ（英文）：
- (6) パネリスト氏名（仮でも結構です）：
- (7) 概要（500 字程度）：

2017 年度日本デザイン学会 秋季企画大会のお知らせ

2017 年度日本デザイン学会秋季企画大会は、函館市で開催します。

会期：2017 年 10 月 13 日（金）から 10 月 15 日（日）

会場：函館市内の複数の施設

担当校：公立はこだて未来大学

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元のない方は、本部事務局へご請求ください。

2017 年度の年会費は 5 月 8 日（月）に自動引き落とし予定です。

本部事務局

平成 28 年度第 6 回理事会議事録

日時■平成 28 年 10 月 1 日（土曜日）

11：40～13：00

場所■武蔵野大学 新宿教室

（新宿センタービル 9 階）D 室

出席者■松岡、小林、井口、井上（貢）、伊原、内山、大島、岡本、柿山、清水、久保（雅）、久保（光）、黄、佐々木、滝本、田中、寺内、生田目、益岡、村上、山田、山中、山本、佐藤（弘）、小野、佐藤（浩）、加藤

名誉会員■君島、清水、平、永田、長谷、梨原、野口、日原、三橋、向井

委任状出席■井上（征）、岡崎、櫛、須永、田村、永井、森田、柳澤、柚木

欠席■工藤、國澤、五十嵐、尾登

1. 会長挨拶

松岡会長より挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介（松岡会長）

参加された名誉会員より、挨拶と近況報告がなされた。

3. 平成 28 年度第 5 回理事会議事録の承認

平成 28 年度第 5 回理事会の議事録が示され、軽微な修正を除き、原案通り承認された。

【審議事項】

4. 平成 29 年度春季研究発表大会について（岡崎大会実行委員（代）大島理事）

大島理事より、平成 29 年度春季研究発表大会について、準備状況の説明がなされた。大会テーマとして、「慮る（おもんばかる）デザイン」が案として提示され、この方向性で検討していくこととなった。

5. 平成 29 年度秋季企画大会について（岡本担当理事）

岡本担当理事より、平成 29 年度秋季企画大会についての企画内容の説明がなされた。2017 年 10 月の第 2 週もしくは第 3 週に函館市内（旧市街）で開催を予定し、基調講演、特別講演、および研究部会や支部イベントを企画しているとの説明がなされた。具体的な内容については今後議論していくこととなった。

6. 法人化手続きについて（國澤法人化対策特別委員長（代）小野委員）

小野委員より、9 月 30 日に法人化のための法務局への書類提出が完了したとの報告がなされた。

7. 法人化以降の研究部会活動について（小林研究推進委員長）

小林研究推進委員長より、法人化後の研究部会活動におけるその位置づけ、名称の注意点、および会計方法が提案され、承認された。これらの内容については今後、各主査と連絡をとり、調整していくこととなった。

8. 論文誌投稿規定改正について（寺内論審委員長）

寺内論文審査委員長より、2 カ所記載されていた掲載料の記述を 1 カ所にまとめて記述するとの提案があり、承認された。また、投稿規定や執筆要項について、英文ジャーナル立ち上げとともに合わせて検討していくこととなった。

9. 平成 29 年度以降の特集号・会報について（松岡魅力向上委員長）

松岡魅力向上委員長より、平成 29 年度以降の特集号・会報についての説明がなされた。特集号についてはカラー版の新しい体裁で年に 2 号分を刊行すること、会報についてはこれら 2 号分に紙媒体に掲載するとともに、web にも掲載することが提案され、承認された。

10. 会員の移動について（佐藤（浩）本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：学生会員 3 名（内外国人 1 名）

が承認された。

11. その他

・年号の表記について（松岡会長）

松岡会長より、年号の表記について変更可能なものについては西暦で記述を統一していくとの提案がなされ、この方向で検討していくこととなった。

【報告事項】

12. 特集号の進捗と来年度の企画案について（井口学会誌編集・出版委員長）

井口学会誌編集・出版委員長より、10 月上旬に第 23 巻 4 号が刊行され、その次には「子どものためのデザイン 03」（担当：岡崎先生）が刊行される予定との報告がなされた。

13. ホームページ更新状況と対応について（内山広報委員長）

内山広報委員長より、Web サイトにおけるニュース投稿及び情報更新のお願いがなされた。また、各ページの URL の統一や日本デザイン学会の Facebook の管理を進めていくとともに、研究推進委員会と連携しながら、主査の情報に加えて幹事とその連絡先の情報を収集していくこととなった。

記録：佐藤（浩）

平成 28 年度第 7 回理事会議事録

日時■平成 28 年 11 月 5 日（土曜日）

15：00～17：30

場所■慶應義塾大学 三田キャンパス（田町）

北館会議室 2

出席者■松岡、小林、井口、大島、岡崎、工藤、久保(光)、
須永、寺内、佐藤（弘）、佐藤（浩）、加藤

委任状出席■國澤

欠席■内山、尾登、山中、山本、小野

1. 会長挨拶

松岡会長より挨拶がなされた。

2. 平成 28 年度第 6 回理事会議事録の承認

平成 28 年度第 6 回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成 29 年度秋季企画大会について（岡本担当理事（代）松岡会長）

松岡会長より、平成 29 年度秋季企画大会について、現状の企画内容の説明がなされた。平成 29 年 9 月下旬から 10 月中旬に函館市西部地区での開催が検討されており、2 日間と 3 日間の両プランが示された。開催時期については、他の学会の講演会等を考慮して決定する必要があるとの意見があった。具体的な内容については引き続き、検討していくこととなった。

4. 2017 年以降の秋季企画大会について（小林研究推進委員長）

小林研究推進委員長より、2017 年以降における秋季企画大会の形式について提案がなされた。主に、複数日開催、開催校と研究推進委員会の役割、および予算（25 万円を基本とし、複数日開催の場合は上限 50 万円とする）について議論され、承認された。

5. 法人化以降の研究部会活動について（小林研究推進委員長）

小林研究推進委員長より、法人化後の研究部会運営における会計や広報手段に関する規則案が示され、承認された。特に、各部会への補助金については、当該年度末に経理報告、活動報告、および新年度の活動計画を事務局へ提出し理事会で承認された部会が受け取れることとなった。

6. 論文誌投稿規定・執筆要領の改正・新設について（寺内論審委員長、佐藤（浩）委員、久保担当理事）

佐藤（浩）論文審査委員より、『デザイン学研究』と『Journal of the Science of Design』執筆要領案と原稿サンプル案が提案された。氏名の表記やフォントの指定方法などを再度検討することとなり、次回の理事会において修正版を示すこととなった。また、合わせて、新ジャーナルへの具体的な移行手順も示すこととなった。

7. 和暦と西暦の使用方法について（松岡会長）

松岡会長より、年号の表記について変更可能なものについては西暦で記述を統一していくとの提案がなされ、次年度から実施していくこととなった。

8. 会員の移動について（佐藤（浩）本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員 8 名（内外国人 1 名）、学生会員 2 名（内外国人 1 名）

退会：正会員 3 名

が承認された。

9. その他

・国際会議の共催について（井口理事）

井口理事より、国際会議（ACDHT、2017 年 9 月開催）の共催に関する提案があった。議論の結果、共催団体としてデザイン史部会とするか日本デザイン学会とするかは書面を作成し、再度審議することとなった。

・学会誌の価格について（佐藤（弘）本部事務局長）

佐藤（弘）本部事務局長より、年間購読会員の会費について提案がなされた。議論の結果、会費は据え置き（¥25,000）とし、個々の学会誌の価格は論文集 ¥2,000、特集号 ¥3,000、作品集 ¥3,500、概要集 ¥3,500 にすることとなった。

【報告事項】

10. 法人化対応について（國澤法人化対策特別委員長（代）松岡会長）

松岡会長より、法務局から法人化手続き完了の連絡があった

との報告がなされた。

11. 特集号の進捗と来年度の企画案について（井口学会誌編集・出版委員長）

井口学会誌編集・出版委員長より、現時点での特集号進捗状況について報告がなされた。また、特集号のリニューアル案について提案があった。表紙や装幀については編集委員会内で作成する方向となり、発行時期については、春季と秋季大会の前のそれぞれ5月と10月という案が出された。次回理事会において発行計画案を示してもらい、議論することとなった。

次年度の企画案として、「イノベーションデザイン論」（担当：永井由加里）と「デザイン保護法制の現状と課題」（担当：麻生典）の2件が示され、今後担当と調整を行っていくこととなった。

12. 作品審査進捗状況（須永作品審査委員長）

須永作品審査委員長より、作品審査状況の報告がなされた。30件の応募があり、1次審査で19件まで絞り、今後2次審査を実施し、12月13日（火）に最終決定を行う予定との説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。
住所変更は確実にお願いします。
届出は文書にてお願いします。
転居される方は、FAXまたは
綴じ込みの「入会届け」に
朱書きで「変更届け」と書き添えて、
事務局までご連絡ください。
ホームページ
http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも
様式が掲載されておりますので
ご利用ください。
退会等の届出も必ず文書にて
お願いします。 本部事務局

平成 28 年度日本デザイン学会第 1 支部研究発表会報告

平成 28 年 10 月 15 日（土）、16 日（日）に青森県八戸市の櫛引八幡宮と館鼻岸壁朝市にて第 7 回日本デザイン学会第 1 支部大会を開催しました。大会のテーマは「在るがままに在るデザイン」です。このテーマは日本画家東山魁夷が八戸市種差海岸に実在する「道」を描いた作品の回顧録で語った次の言葉に由来します。

「その道は、明るい烈しい陽に照らされた道でも陰惨な暗い影に包まれた道でもなく、早朝の薄明の中に静かに息づき坦々として在るがままに在る、ひとすじの道であった。」

魁夷のように視界に広がる世界を在るがままに肯定し、そのなかで自分にできる活動を興すこともデザインの本来的な行為の一部であるとし、八戸に暮らす人々の在るがままに在る日常を感じながら、あるべき社会につづくデザインの「道」を探索することを今大会の目標としました。

大会初日は八戸の馬信仰文化がのこる櫛引八幡宮にて開催しました。10 月中旬の八戸は肌寒い季節ですが晴天に恵まれ、暖かな陽気の中、44 名の参加者が集まり第 1 支部大会がスタートしました。参加者は始めに 30 分ほどかけて境内各所に祀られる 9 体の八幡馬（八戸の郷土玩具）を探すゲームを通して地域文化をフィールドワークしました。その後、県内最古の洋風建築である明治記念館の 1 階で、八幡馬の伝統工芸士・大久保直次郎氏による鉋一刀彫の制作実演を見せていただき、大久保氏が先代から継承し発展させてきた八幡馬の造形技術や知恵を学びました。実演の後、明治記念館 2 階で研究発表をおこないました。ここでは、畳に座して研究発表する形で、公立はこだて未来大学の学生、大学院生による発表が 5 件、札幌市立大学・大学院生の発表が 1 件、Fablab SENDAI の小野寺氏と東北工業大学の両角教授の発表を含めて計 8 件の発表がありました。口頭発表は 1 件につき 30 分（発表 15 分質疑 14

分、交代 1 分）とし、質疑の内容に合わせて議論を深められるようにプログラムしました。

初日の夜は、宿泊先の宴会場で懇親会を開きました。懇親会では、今大会の新たな試みとして、学生や研究者だけでなく地域の行政や民間、個人事業者ら 9 名が実践する社会活動の取り組みや活動ビジョンを 5 分間で物語るライトニングトークを開催しました。社会実践者による発表は地域の課題に生活者として向き合い、社会のあるべき姿の実現を模索するリアルな営みが垣間見え、互いの専門領域を超えて大いに盛り上がりました。

2 日目は 1 日 1 万人超の人々が訪れる館鼻岸壁朝市にて 8:30 からポスター発表をおこないました。この日も雲一つない晴天に恵まれ、大勢の地元民が新鮮な食材を求めて朝市に来ていました。そうした喧騒の中で、公立はこだて未来大学の学生が 4 件、八戸工業大学の学生が 2 件の研究を発表しました。学会を市場に持ち出す前例のない試みでしたが、意外にも、発表会場は人の動きが途絶えること無く、多くの市民が足を止め、学生の発表に耳を傾けていました。市民と参加者が共に未来の生活や社会の在りようを考え、語り合う場はまさに現代のアゴラであったと言えます。

本大会には、札幌市立大学、公立はこだて未来大学、東北工業大学、東北芸術工科大学、秋田大学、慶應義塾大学、千葉工業大学、八戸工業大学の学生・大学院生・教育研究者が参加したほか、八戸市教育委員会、八戸市まちづくり文化推進室、弘前地域研究所など県内の行政関係者そして八戸ノ本室、紙とくらしの道具店、安斉研究所、八戸ハマリレーションプロジェクト、三八地方森林組合、FabLab SENDAI/ 一般社団法人 Flat、みずほ情報総研株式会社など県内外の個人事業者や民間事業者、企業関係者らも参加し、産学官民の多様な専門家が交流できる新たな研究発表の場となりました。大会に参加戴いた皆さまに改めて感謝の意を表します。

第 7 回第 1 支部大会実行委員長 横溝 賢（八戸工業大学）

第 1 支部 支部長 岡本誠、副支部長 柚木泰彦



櫛引八幡宮をフィールドワークする参加者



ライトニングトークをするデザイナー



大久保直次郎氏の話聞く参加者



ライトニングトークの RTD の振り返り



朝市でのポスター発表の様子

平成 28 年度日本デザイン学会第 5 支部研究発表会報告

会場：九州産業大学 芸術学部キャンパス（福岡県福岡市東区
松香台 2-3-1）

日程：平成 28 年 10 月 15 日（土）

平成 28 年度、第 12 回目となる第 5 支部の研究発表会は、10 月 15 日（土）に九州産業大学芸術学部を会場として開催されました。

今年は大学院生を中心に研究発表が 34 件、参加者は全体で 55 名でした。第 5 支部のもうひとつの事業である「学生デザイン展」が独立・充実したことから、本会での学部学生によるポスター発表や展示は無くなりましたが、遠方からの研究発表や聴講参加もあり、活発な意見交換がなされました。

この 12 年を振り返ってみると、直前の熊本地震に代表される大きな自然災害、インフラの老朽化、ネットワーク犯罪、心の病に至るまで、資源・エネルギー・人口といった世界的な問題に加えて、新たな問題が次々に発生した時代であったことを強く感じます。「デザインに何ができるか」を考えると、最も重要なことは「問題の存在に気付く」ということではないか



研究発表の様子



懇親会の様子

と思います。第 5 支部の研究発表会は大学院生の発表の多いことが特徴であり、ここでは毎年、若い研究者の視点から新たな問題提起がなされています。この支部会が地域の新たな問題共有の場となること、またそれが人と人とのつながりを通して、新たな提案へと結実することを願って、今後も会を継続していきたいと考えています。

以下、発表題目を列挙します。

（氏名は筆頭者のみ、敬称略）

- ・自己健康管理サービスを創出するための基礎調査 / 丁一
- ・武道館から考える日本文化とコミュニティ空間について / 山本桜子
- ・空間体験における日常との連続による価値の発見に関する研究 / 藤中康平
- ・日本の空間意識に基づいた地域個性創出のためのモビリティ / 河本直之
- ・公共建築における緩衝空間のとらえ方と気候の関係に関する日中比較研究 / 李瑛
- ・中国人が安心して利用できる自動販売機に関する研究 / 李鴻燕
- ・住民主体によるシビックエコノミーの企画と展開についての研究 / 新津裕隆
- ・クラッシュシンバルの特性と音色の印象評価による快音設計についての考察 / 瀧平悠介
- ・サイクリングコミュニティのあり方に関する研究 / 矢部修史
- ・留学生のための日本における自転車通行環境のあり方に関する研究 / 張倩
- ・中国の女性旅行者向けの日本観光情報提供方法に関する研究 / 任艶艶
- ・キャラクター商品のデザイン研究 / 陳寶
- ・レジリエンスとしての高齢者学習活動の行為分析 / 劉瑾
- ・多久市園児の足変形計測 / 柴田英俊
- ・タイプライターの広告にみるジェンダーについて / 賀佳
- ・ウルム造形大学におけるデザイン方法に関する研究 / 三舛悦人
- ・ゴミ袋のユニバーサルデザイン / 金澤尚樹
- ・被災地におけるレジリエンスデザインの調査方法について / 姜昱健
- ・家庭での算数的活動を促進する玩具デザインの研究 / 西川紅瑠美
- ・震災復興におけるデザイナーの役割についての研究 / 澤原晃平

- ・日本の美における金の表現に関する研究 / 片山宗一郎
- ・アニメーションを用いたユーザーインターフェースのデザイン研究 / 溝部洋平
- ・超高齢社会における車いすデザインについての研究 / 福井勝一
- ・SF 映画からみるプロダクトデザインにおける未来的造形表現の研究 / 永田和寛
- ・子どもの食物アレルギー誤食の発生リスクと回避要因の可視化 / 松尾紘出子
- ・中国における現代文玩の流行形成に関する研究 / 馬迎杰
- ・デジタルデバイスにおける漢字教育用書体のデザイン要件に関する研究 / 林可佳
- ・中国料理と日本の中華料理の比較研究 / 劉軒
- ・学生支援領域におけるピア・サポーターの学びのプロセスに関する一考察 / 龍興彩香
- ・創造性を引き出すためのワークショップデザイン / 畑山菜々美
- ・伝統文様を使用した積み木のデザイン / 宮地英和
- ・在宅用立位保持訓練ロボットの研究・開発 / 田代雄大
- ・高齢者利用を想定した木製椅子の開発 / 中西拓也
- ・プロジェクションマッピングを活用したイベントガイドデザイン 3 / 岩田敦之

以 上

2017.01.12 第5支部長 井上貢一（九州産業大学 芸術学部 ソーシャルデザイン学科）

献本御礼

◆機関誌

TAMABI News 72、2016 年 1 月、多摩美術大学
タイポグラフィ学会誌 09 号、2016 年 11 月

◆図書

価値創出をになう人材の育成、横幹〈知の統合〉シリーズ編集委員会、2016 年 11 月、東京電機大学出版局
海外でデザインを仕事にする、岡田栄造編・鈴木元・森山茜・青木翔平・福定良佑・徳島泰・川島高・今村（庄司）ひかる・長田喜晃・青木慶一・山本尚明・清水花笑・中山雄太・小林耕太・村上あずさ共著、2017 年 2 月、学芸出版社

会員の移動

◆平成 28 年度第 7 回理事会承認 2016.11.05

新入会

正会員 8 名（内海外会員 1 名）

須藤 良子 田北 雅裕 土屋 高康 土肥真梨子
羽太 広海 福井 崇人 道尾 淳子 Jinhae Choi

学生会員 2 名（内海外会員 1 名）

小野村頼子 馮 淑萍

退会

正会員 3 名

小笠原登志子 島田 達 菱沼 隆

◆平成 28 年度第 8 回理事会承認 2016.12.17

新入会

正会員 2 名（内海外会員 1 名）

渡邊 萌 陳 芳如

学生会員 4 名（内海外会員 3 名）

宮原 愛 呉 英順 呉 世興 陳 美均

退会

正会員 3 名

中村 幸司 平澤 祐子 宮後 優子